

内甲三一九

昭和十二年十二月二十七日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣友

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

別紙内務大臣請議昭和十二年勅令
 第六百二十四號申改正ノ件
 ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

十五

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕昭和十二年勅令第六百二十四號
臨時社會局ニ臨時軍事援護部ヲ置
ク、件中改正、件ヲ裁可ニ茲ニ之
ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年一月七日

内閣總理大臣
内務大臣

呈案附箋一通

光緒三十二年十二月二十七日

內閣

內閣總理大臣

去
司
局

法制局内第八三号

北官廿三

此ノ件關係主任官

社會局書記官

持 永 義 夫

發庶第二四五號

軍事援護ニ關スル專門的事項ヲ調査研究セシムル爲社會局臨時軍事援護部ニ專門委員設置ノ必要アリ依テ別紙ノ通勅令案ヲ具シ右閣議ヲ請フ

昭和十二年十二月二十七日

內務大臣 末次 信正



內閣總理大臣リ公爵 近衛 文麿 殿

内甲三一九

社會局

勅令第 五 號

昭和十二年勅令第六百二十四號中左ノ通改正ス

第三條、臨時軍事援護部ニ専門委員ヲ置キ専門ノ事項ヲ調査セシム

専門委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

専門委員ハ當該専門ノ事項ニ關スル調査終了シタルトキハ退任ス

、附、則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

土 會 司

理由

軍事援護ニ關スル事項ハ頗ル重要緊切ニシテ其ノ内容複雑多岐ニ亘
リ又専門的取扱ヲ要スル事項尠カラズ學識經驗アル者ノ中ヨリ適當
ナル専門委員ヲ命ジ之ヲシテ調査研究ニ當ラシムル要アルニ由ル

臨時社會局ニ臨時軍事援護部~~ヲ~~置^ル件

勅令第六二四號

第一條 軍事扶助、傷疾軍人ノ保護、職業

紹介其ノ他軍事援護ニ関スル事務ヲ掌^ル

シムル爲臨時社會局ニ臨時軍事援護部ヲ

置^ク

第二條 社會局ニ左ノ職員ヲ置キ臨時軍事

援護部ニ屬セシム

部長

書記官

事務官

技師

屬手

專任二人

專任三人

專任一人

專任十八人

部長ハ社會部長タル社會局部長ヲ以示之
ニ充ツ
附則
本令ハ昭和十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行

參考

專門委員ニ關スル經費經理計畫

一、支出見込額

一、五〇〇圓

内 詳

(一) 手 當

專門委員三〇人一人年一〇〇圓トシテ年額三、〇〇〇圓
此ノ一ヶ月分二五〇圓

(二) 旅 費

專門委員一人年四〇〇圓三〇人分一、二〇〇〇圓此ノ一
ヶ月分、〇〇〇圓

(三) 雜 費

賄費其ノ他諸雜費トシテ二五〇圓

二、支出費目

臨時軍事援護諸費ノ内雜給及雜費ノ目、給與ノ節ニ囑託手當年額七二
〇〇圓ノ三ヶ月分(一月末迄)一、八〇〇圓計上シアル處現在迄支出セ
ザルヲ以テ之ヲ右經費ニ充當シ尙三〇〇圓ノ余裕アリ

參照

朕臨時社會局ニ臨時軍事援護部ヲ置クノ件
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十二年十月二十九日

内閣總理大臣 公府 近衛 文麿

内務大臣 馬場 鉄一

勅令第六百二十四號(官報十月三十日)

第一條 軍事扶助、傷痍軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事援護ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲臨時社會局ニ臨時軍事援護部ヲ置ク

第二條 社會局ニ左ノ職員ヲ置キ臨時軍事援護部ニ屬セシム

部長

書記官 專任二人

事務官 專任三人

技師 專任一人

屬(助手) 專任十八人

部長ハ社會部長タル社會局部長ヲ以テ之ニ充ツ

附則

本令ハ昭和十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス



内甲一

昭和十三年 三月二十三日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年三月二十三日公布

内閣總理大臣表

法制局長官

外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



内務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



別紙内務大臣請議内務省官制中改正ノ

件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

十六

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕内務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年三月二十九日

内閣總理大臣

内務大臣

呈案附箋ノ通

法
部
月

法制局



法制局内第一号

昭和七年七月七日

乙第一號

昭和十三年一月六日

内務大臣 末次信正



内閣總理大臣公爵 近衛文麿殿

映畫檢閲機關ノ充實ノ爲内務省官制中改正ノ要アリ別紙勅令案ヲ提

出ス

右閣議ヲ請フ

内甲一



勅令第百五十二號

内務省官制中左ノ通改正ス

第十條中「專任内務理事官四人」ヲ「專任内務理事官五人」ニ改

ム

第十二條中「專任屬及專任技手通ジテ二百一人」ヲ「專任屬及

專任技手通ジテ二百四十人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

近時内地上映映畫並輸出映畫ノ檢閲著シク繁激ヲ加ヘ來レルヲ以テ之ガ完璧ヲ期センガ爲理事官一人及屬、技手通ジテ三人ヲ増員セントス

参照

○内務省官制

明治三十一年十月
勅令第百五十九號

(總理内務
大臣副署)

第十條 内務省ニ專任内務事務官十九人及專任内務理事官五人ヲ置ク奏任
トス上官ノ命ヲ承ケ事務ニ従事ス

第十二條 内務省ニ專任技師十五人ヲ置ク内ニキ人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
内務省ニ專任屬及專任技手通シテ三百一人ヲ置ク

參照

昭和十二年度內務省所官豫算

歲出經常部

第三款 內務本省

第一項 俸給

第二目 奏任俸給

節

理事官

第三目 判任俸給

屬

技手

人員

一人

年額

二一七〇

金

額

三月分

一〇、八五〇
五四二

一九一

五三

九八五

三月分
十月分

一八八、一三五
七三八
四一〇四

活動寫真フィルム検閲統計

年別種別	検閲件数	巻数	米数
大正十四年中	一六、八八七	二九、一三七	七、一九八、七三二米
昭和元年中	一五、三四八	七一、七六七	一七、六八三、五九四
二年中	一六、一〇一	七六、八一〇	一八、九三四、一六三
三年中	一八、八九三	七五、九〇三	一七、九〇五、九七六
四年中	一六、五七四	八三、七九一	二〇、〇六二、二九四
五年中	一七、四三〇	八三、六九九	二〇、一九八、三二九
六年中	一五、六九一	七六、二〇二	一七、八七三、七九二
七年中	一八、四三六	七六、四七七	一七、三七七、三三二
八年中	一四、九八四	七一、二〇四	一六、一九八、九六三
九年中	一七、四六八	八〇、一二六	一八、三三三、九〇八
十年中	二一、〇七五	八八、八〇四	二〇、〇二九、〇九二
十一年中	二五、〇〇八	九六、三八三	二一、九〇五、八六七
十二年	四一、五六〇	一一五、六四五	二五、七〇一、九五二

發聲活動寫真「フィルム」檢閲統計（前表中再掲）

年別種別	件数	巻数	米数	無声フィルム比率（米数）
昭和四年（五月ヨリ）	三七四	一九二	四五六、六五五	〇、〇二
五年	九三九	四、七四六	一、一四一、五一七	〇、〇六
六年	九五二	六、〇〇三	一、五〇三、一二〇	〇、〇八
七年	二六六〇	一一、八五四	三、〇〇〇、七五八	〇、一七
八年	二九六七	一五、〇四一	三、七一九、二三八	〇、二三
九年	五七一大	三〇、二九二	七、三四大、三四六	〇、四〇
十年	一〇、九七五	五二、四〇〇	一、二七六八、二九〇	〇、六四
十一年	一五、六三六	六五、二九九	一、六〇七〇、八一	〇、七三
十二年（十月ヨリ）	二六、二五二	七一、一二二	一、六七七〇、九五	〇、八二

参考

内務省官制ニ依ル属、技手定員及現在員調
理事官欠員ナシ

定員 二百一人

現在員 百七十二人

缺員 二十九人

備考

- 一 本年見習ノ採用豫定數十二人ハ四月中旬採用ノ見込
- 二 昭和十三年度豫算各目明細書計上人員ト三人ノ差アルハ官制未改正ノモノ三人アルニ依ル

内務省

規格 B. 5.

IMT 646

393

濟

陸甲 一五

昭和十三年 四月 六日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年四月八日
昭和十三年四月十四日公布

内閣總理大臣 齋

法制局長官



外務大臣

齋

陸軍大臣

齋

文部大臣

齋

逓信大臣

厚生大臣

齋

内務大臣

齋

海軍大臣

農林大臣

齋

鐵道大臣

齋

大藏大臣

齋

司法大臣

齋

商工大臣

齋

拓務大臣

別紙内務陸軍海軍三大臣請議官國幣社職

制中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

十七

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕官國幣社職制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年四月十三日

内閣總理大臣

内務大臣

陸軍大臣

海軍大臣

卷第一九〇二編

呈案附箋ノ通

昭和四年四月四日

陸軍大臣 櫻井 山

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

去
月
日

別格官幣社靖國神社ハ明治二年 勅旨ヲ以テ創建セラレ後靖國ノ社號ヲ賜ヒテ別格官幣社ニ列セラレ現ニ十三萬餘柱ノ祭神ヲ奉齋スル特殊ノ御社柄ニシテ他ノ官國幣社中其ノ類例ヲ見サル所ナリ春秋二季ノ例祭ニハ勅使ヲ參向セシメラレ又臨時大祭ニハ特ニ車駕親臨アラセラル且近時國民ノ崇敬愈々厚キヲ加ヘ隨テ社務亦一層劇甚ナルニ至レリ近クハ又支那事變ニ伴フ合祀大祭ヲ執行ハシメラル即チ此等祭儀及社務遂行ノ實情ニ鑑ミ官國幣社職制ヲ改正シ特ニ本社ニ權宮司ヲ増置シ之カ奉仕ニ遺憾ナキヲ期セムトス仍テ別紙官國幣社職制中改正案ヲ提出ス

國軍大臣

山

右閣議ヲ請フ

官國幣社職制中改正案

別紙一カ



令

案

勅令第三百四十七號

主任者

陸軍大臣官房

柏田少佐

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

チ、官幣大社明治神宮

(参照)

理由

別格官幣社靖國神社ハ十三萬餘柱ノ祭神ヲ奉齋シ他ノ官國幣社中
 類例ヲ見ザル特殊ノ御社柄ニシテ春秋二季ノ例祭ニハ勅使ヲ參向
 セシメラレ臨時大祭ニハ特ニ親臨アラセラル且ハ近時國民ノ崇敬
 愈々厚キヲ加ヘ隨テ社務亦一層劇甚ナルニ至リタルト近クハ又支
 那事變ニ伴フ合祀大祭ヲ執行ハシメラル等ノ關係上祭儀及社務
 遂行ノ實情ニ鑑ミ特ニ本社ニ權宮司ヲ増置シ之ガ奉仕ニ遺憾ナキ
 ヲ期セシムルノ要アル由ル

官幣大社熱田神宮ニ權士長一人及權士ヲ置ク
 主典、宮藏及權士ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

(参照)

官國幣社職制

第六款 官同車並てハイキハ 明治三十五年二月十日

第七款 官同車並てハイキハ 明治三十五年二月十日

第一條 官幣社及國幣社ニ左ノ神職ヲ置ク

官 司 一人 但シ官幣大社熱田神宮、官幣大社出雲大社、官幣大社權原

權 司 一人 神宮一及官幣大社明治神宮、官幣大社明治神宮及別格官

主 典 一人 幣社境國神社ニ限ル

主 典 一人 官同及幣官同ハ 神職並替テ亦テ 祭務及 祭務ニ 委奉

官 掌 一人 但シ官幣大社熱田神宮ニ限ル

官 幣 大 社 熱 田 神 宮 二 衛 士 長 一 人 及 衛 士 十 五 人

官 掌 及 衛 士 ノ 定 員 ハ 内 務 大 臣 之 ヲ 定 ム

官 同 八 内 務 大 臣 之 ヲ 定 ム

第二條 宮司ハ内務大臣及地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ國家ノ宗祀

官 奉仕シ祭儀ヲ司トシ庶務ヲ管理ス

第三條 權宮司ハ宮司ヲ輔佐シ祭儀及庶務ニ從事ス

第四條 禰宜ハ宮司及權宮司ノ指揮監督ヲ承ケ祭儀及庶務ニ從事

ス

第五條 主典及宮掌ハ上職ノ指揮監督ヲ承ケ祭儀及庶務ニ從事ス

第五條ノ二 衛士長ハ宮司及權宮司ノ指揮監督ヲ承ケ警衛事務ニ

從事ス

第五條ノ三 衛士ハ上職ノ指揮監督ヲ承ケ警衛ニ從事ス

第六條 宮司事故アルトキハ權宮司ヲ置ケル神社ニ在リテハ權宮

司之ヲ代理シ其ノ他ノ神社ニ在リテハ禰宜之ヲ代理ス

第七條

宮司及權宮司ハ奏任待遇トシ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ禰宜、主典、宮掌、衛士長及衛士ハ判任待遇トシ地方長官之ヲ命ス

第七條ノ二 宮司ニシテ十五年以上奏任又ハ奏任待遇以此ノ神官

神職ノ職ニ在リ功績顯著ナル者ハ特ニ勅任官ノ待遇ト爲

スコトヲ得

第十條

權宮司ヲ置久神社ノ宮司ヨリ前項ノ規定ニ拘ラズ勅任官ノ

待遇ト爲スコトヲ得

第十一條

前二項ノ規定ニ依リ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル者ノ

員數ハ通シテ十三人ヲ超スルコトヲ得ス

第八條

官國幣社職員ニハ俸給ヲ支給ス官但シ宮司及權宮司ニ在

第八條 内務大臣ハ禮宜ニ主典及官掌ニ在リテハ地方長官

ニ於テ名譽職ト爲ス可キヲ妨ケスモ得ズ

第九條 官國幣社職員ヲ服務シ俸給及旅費ニ關スル規程ハ内務大

臣之ヲ定ムコトヲ得

第十條 本令中内務大臣及地方長官ニ關スル職權ハ別格官幣社

國神社ヲ神職ニ關シテハ陸軍大臣及海軍大臣之ヲ行フ

轉轉ノ職ニ由リ以テ職權ニ關シテハ轉轉ノ職ニ由リテ

第十一條 宮内ニシテ十五年以上奏進又ハ奏進特異以其ノ轉官

特異ノ職ニ就ク者官立モ命ス

ニ就テハ命ニ應ジテ主典、官掌、禮士、奏進、禮士ハ其ノ

第十二條 宮内及禮官内ハ奏進特異ノ職ニ關シテ内務大臣ハ奏進ニ關

昭和十三年 三月二十五日

参照

○官國幣社職制

明治三十五年二月
勅令第二十七號
(總理海軍陸軍
內務大臣副署)

第一條 官幣社及國幣社ニ左ノ神職ヲ置ク

- 宮司 一人
- 權宮司 一人 但シ官幣大社熱田神宮、官幣大社出雲大社、官幣大社概原神宮及官幣大社明治神宮ニ限ル
- 禰宜 一人
- 主典 一人
- 宮掌 一人 但シ官幣大社熱田神宮ニ限ル
- 官幣大社熱田神宮ニ衛士長一人及衛士ヲ置ク
- 主典、宮掌及衛士ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

内甲五五

昭和十三年 三月二十五日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年三月二十五日
昭和三十二年五月二十日
公布

内閣總理大臣 齊

法制局長官

外務大臣

三

陸軍大臣

五

文部大臣

五

逓信大臣

柳印

厚生大臣

五

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

興

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙 内務大臣 請議 内務省
官制 中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕内務省官制中改正ノ件ヲ裁
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年五月二十七日

内閣總理大臣

内務大臣

呈案ノ通

法制局内第四号

癸月廿八日

乙第二六號

昭和十三年三月十九日

内務大臣 末次信正



専門委員ノ任命ニ接着シ公布
スノ要アルヲ以テ公布ノ日ニ付
ニ主務省ト打合セラレタシ

法制局



官房總務課

御中

右閣議ヲ請フ

専門事項ノ研究調査ニ従事スベキ
勅令案ヲ提出ス

内甲五五

内務省



勅令第三百七十五號

内務省官制中左ノ通改正ス

第十二條ノ三 内務省ニ専門委員ヲ置キ防空ニ關スル専門ノ事項

ヲ調査セシム

専門委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣

ニ於テ之ヲ命ズ

専門委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任

期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

防空ノ完璧ヲ期スル爲本省ニ通信、警報、燈火管制、防毒其ノ他防空ニ關スル専門事項ノ研究調査ニ從事スベキ専門委員ヲ設置スル要アルニ依ル

●内務省官制

明治三十一年十月二十二日
勅令第二百五十九號

朕内務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、内務大臣副署)

内務省官制

第一條 内務大臣ハ神社、地方行政、議員選舉、警察、土木、衛生、都市計畫、防空、地理、出版、著作權及拓殖ニ關スル事務ヲ管理シ警視總監、

第九條 北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス
計畫局長ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 都市計畫ニ關スル事項
- 二 防空ニ關スル事項

第十二條ノ二 内務大臣ハ必要ニ應シ土木出張所又ハ土木試驗所ヲ置キ直轄土木工事並河川、道路、港灣及砂防ノ調査試驗等ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
土木出張所又ハ土木試驗所ニ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第十三條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス
臺灣事務局官制及明治二十七年勅令第六十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(下 略)



參照

昭和十三年度內務省所管豫算

歲出經常部

第三款 內務本省

第二項 事務費

第八目 給與

第三節 囑託手當 四五、二五一圓

神社事務、防空並警察事項、調査等囑託手當十ノ

由譯列帳連

昭和十三年度防空關係豫算參考書

IMT 646

413

防空法施行ニ要スル經費ノ増加

現下ノ情勢ニ鑑ミ防空ニ關スル設備資材ノ整備ハ最モ急施ヲ要スルヲ以テ廳府縣及市町村ニ於ケル各種施設ヲ整備セシメ之ニ對シ防空法ノ規定ニ基キ國庫ヨリ補助ヲ爲ス要アルト防空思想ノ普及徹底ヲ圖リ以テ同法施行ノ圓滑ヲ期セムガ爲此ノ經費ヲ要ス

防空法施行ニ要スル經費ノ増加内譯

區	分	人	員	一人年額	金額	備考
內務省	經常部				八、〇〇〇	中央二五〇圓 地域別ノ分、六〇〇圓
	本省				八、〇〇〇	
事務費	給與	三〇	一〇〇	三、〇〇〇		
	專門委員手當				五、〇〇〇	
防空講習費	應費				一、八五〇	
	內國旅費				一、〇〇〇	
高等官	判任官	二	三〇〇	六〇〇		
	雜給及雜費				二、一五〇	

補助費	臨時部	經常部計	雜費	講師囑託手當	雜給及雜費	應費	防空講習費	事務費	地方應	雜費	講師囑託手當
一、七七六、八七九		一八、〇〇〇	一、五四〇	四、七〇〇	六、二四〇	三、七六〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四七五	一、六七五
										中央一人五圓五人分 地域別一人一〇〇圓 二人八地域分 中央七五圓 地域別ノ分四〇〇圓	

防空施設費補助	一、七七六、八七九	内譯別紙ノ通
設備資材整備費補助	一、五二六、八七九	
通信設備費補助	一〇八、三三三	
警報器設備費補助	九〇、〇〇〇	
水利及消火施設設備費補助	四三五、二〇〇	
貯水槽設備費補助	一〇六、六〇〇	
消火栓設備費補助	二一八、六〇〇	
消防ポンプ設備費補助	一、一〇、〇〇〇	
防護設備費補助	八九三、三四六	
防毒面設備費補助	七一、九四六	

小學校防護室 設備費補助	四八七、五〇〇
地下防護室設 備費補助	二四一、四〇〇
救護所防護室 設備費補助	九二、五〇〇
防空訓練費補助	二五〇、〇〇〇
防空思想普及費	一〇〇、〇〇〇
防空思想普及費	四九、八〇〇
廳費	二、〇〇〇
內國旅費	一三、七三四
雜給及雜費	三四、四六六
獎勵費	一、八七六、八七九
臨時部計	一、八九四、八七九
合計	

內譯別紙ノ通

設備資材整備費補助内譯

區	分設	備費	補助額	備考
總額	四、二四六、七四〇	一、五二六、八七九		
通信設備費	三二五、〇〇〇	一〇八、三三三	三分ノ一	
警報器設備費	二七〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	三分ノ一	
水利及消火施設設備	一、三〇五、六〇〇	四三五、二〇〇	三分ノ一	
貯水槽設備費	三一九、八〇〇	一〇六、六〇〇	三分ノ一	
消火栓設備費	六五五、八〇〇	二一八、六〇〇	三分ノ一	
消防ポンプ設備費	三三〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	三分ノ一	
防護設備	二、三四六、一四〇	八九三、三四六		
防毒面設備費	二一五、八四〇	七一、九四六	三分ノ一	
小學校防護室設備費	一、四六二、五〇〇	四八七、五〇〇	三分ノ一	
地下防護室設備費	四八二、八〇〇	二四一、四〇〇	二分ノ一	
救護所防護室設備費	一八五、〇〇〇	九二、五〇〇	二分ノ一	

昭和十三年

專門委員 詮衡豫定

一 專門委員ノ調査スベキ部門ハ左ノ如ク分ツコト

内閣總理大臣

イ 總括部門（航空機、兵器等）
ロ 土木、建築、綠地關係部門

法制局長官

ハ 監視、通信、警報關係部門

外務大臣

ニ 燈火管制關係部門
ホ 防毒、避難、救護關係部門

逓信大臣

厚生大臣

内務大臣

ニ 專門委員ハ概ネ左ニ掲グル者ヲ充ツル見込ナルコト
イ 關係各省技術官（奏任級） 五名
ロ 陸海軍將校（佐官級） 一〇名
ハ 大學教授、助教授（奏任級） 五名

陸軍大臣

陸海軍將校（佐官級）

一〇名

五名

別紙内

民間學識經驗者

一〇名

委員會官制

中改

東京市、大阪市、電氣協會、建築協會、照明學會、醫師會、藥劑師會等關係者

内務省

規格 B. 5.

IMT 646

420

濟

内甲 一六四

昭和十三年 五月二十四日

内閣書記官長



内閣書記官



吉吉
五五
天五

内閣總理大臣 友

法制局長官

外務大臣

友

陸軍大臣

友

文部大臣

友

遞信大臣

友

厚生大臣

友

内務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

大藏大臣

興

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

別紙内務大臣請議都市計畫委員會官制

中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法務局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕都市計畫委員會官制中改正ノ件ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年五月二十七日

内閣總理大臣

内務大臣

呈案附箋ノ通

法制局

法制局内第一五号

内務省



乙第七一號

昭和十三年五月十一日

内務大臣 末次信正



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

都市計畫委員會官制中改正ノ件別紙勅令案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

内甲一六四

内務省

佐藤



IMT 646

423

勅令第三百七十六號

都市計畫委員會官制中左ノ通改正ス

第十七條第一項中「事務官 專任二十一人以内」ヲ「事務官 專任

二十二人以内」ニ、「技師 專任八十人以内」ヲ「技師 專任八十

二人以内」ニ、「書記 專任九十九人以内」ヲ「書記 專任百七人

以内」ニ、「技手 專任二百五十五人以内」ヲ「技手 專任二百六

十九人以内」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

都市計畫法適用市町村ノ増加ト既適用市町村ニ於ケル都市計畫ノ
進捗トニ伴ヒ都市計畫地方委員會ノ事務ハ益々繁劇ヲ加フルニ至
リタルヲ以テ其ノ職員ヲ増員シ事務ノ執行上遺憾ナキヲ期セムガ
爲都市計畫委員會官制中本案ノ如ク改正セムトスルモノナリ

内務省

参照

○都市計畫委員會官制

大正八年十一月
勅令第四百八十三號

(總理內務
大臣副署)

第十七條 地方委員會ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

事務官 專任二十一人以内 奏任

技師 專任八十人以内 奏任

書記 專任九十九以内 判任

技手 專任二百五十五人以内 判任

(後略)



茨城	千葉	群馬	埼玉	新潟	長崎	兵庫	神奈川	大阪	京都	東京	北海道	奈良	栃木
			一	一	二	一	二	一	二	一	二		
一	一	一	一	一	一	八	三	七	四	七	四		
一	二	一	二	一	二	二	三	五	三	七	五		
三	六	四	六	三	四	五	〇	三	二	七	〇	一	五
												備	考

都市計畫地方委員會職員定員表

(朱書ハ今回ノ増員ヲ示ス)
 (括弧付ノ分ハ留置定員ヨリ)
 (配當ノ見込)

内務省

規格 B. 5.

IMT 646

427

大分	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	和歌山	山口	廣島	岡山	鳥根	鳥取	富山	石川	福井
二						○								
一	五	一	内		八	○		八	八					
一	三	一	鳥取		○			九	九					
三	七	一	二	三	三	五	六	七	二	四	三	一	四	四

内務省

規格 B. 5.

IMT 646

429

制改 定正 員官	留 置	定官 員制	合 計	沖 繩	鹿 兒 島	宮 崎	熊 本	佐 賀
三三	○	二一	二			定員		
八三	○	八〇	八〇			改正	一	一
一〇七	○	九九	九九			一	二	一
二六充	(二)	二五五	(二) 二五三			一	四	三

技師一人
 内島取ノ技師一人ノ予算ノ内係上
 一時増員ヲ見合ヌコトトス

内務省

規格 B. 5.

IMT 646

430

制改正員官	留置	定官員制	合計	沖繩	鹿兒島	宮崎	熊本	佐賀
三三	○	二一	二二					
八三	○	八〇	八〇					
一〇七	○	九九	九九					
二充	(二)	二五五	二五五					

内島取ノ技师一ハ予算ノ内係上
 一時増員ヲ見合ヌコトトス
 商
 技師
 一
 一

内務省

規格 B. 5.

IMT 646

430

		愛知		差引増員	
			一一		
			五五		
			八九		二
			一四		三
昭和八年八月	昭和三年六月	大正五年六月	昭和三年六月	大正五年六月	昭和十年三月
技師一	技師一、技師二、技師三、技師四	技師一、書記二、技師三	書記一、技師二	技師一、書記二、技師三、技師四、書記八、技師三	技師一
五市			六市		
二五町			一五町		
七九八七五			一七六九八四		
昭和五年四月	昭和五年五月	昭和五年六月	昭和五年七月	昭和五年八月	昭和五年九月
三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定
熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定
法適用	法適用	法適用	法適用	法適用	法適用
昭和五年四月	昭和五年五月	昭和五年六月	昭和五年七月	昭和五年八月	昭和五年九月
三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定
熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定
法適用	法適用	法適用	法適用	法適用	法適用
昭和五年四月	昭和五年五月	昭和五年六月	昭和五年七月	昭和五年八月	昭和五年九月
三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定	三島街路計畫決定
熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定	熱海街路計畫決定
法適用	法適用	法適用	法適用	法適用	法適用

日本標準規格B5(182x257mm)

IMP 646

433

定員配置ノ沿革(昭和)		昭 和 八 年 十 月	昭 和 九 年 九 月	昭 和 十 年 三 月	昭 和 十 年 七 月	昭 和 十 年 九 月	昭 和 十 年 十 月	昭 和 十 年 十 一 月	昭 和 十 年 十 二 月
定員	技師 書記 技手	技師一 書記二 技手二	技師一 書記一 技手一	技師一 書記一 技手一	技師一 書記一 技手一	技師一 書記一 技手一	技師一 書記一 技手一	技師一 書記一 技手一	技師一 書記一 技手一
沿革									
市町村		五市 二五町			三市 六町				二市 二町 一村
人口	同上人口	七九八七五			二六四七六				九九九三二
最近ニ都市計畫事務進捗狀況		昭和十年十一月 大宮街路計畫決定 昭和十年三月 靜岡土地區劃整理決定 昭和十年十一月 大宮風致地區決定 昭和十年十一月 大宮公園計畫決定 昭和十年三月 清水公園計畫及同事業決定 昭和十年三月 熱海風致地區決定 昭和十年三月 富市街地建築物法適用 昭和十年三月 清水街路事業決定 昭和十年三月 清水公園計畫及同事業決定 昭和六年以降ニ於テ認可セラレタル十四ヶ地區ノ土地區劃整理組合設計ノ指導	昭和十年五月 笠松市都市計畫法適用 昭和十年五月 土岐市同 昭和十年五月 下呂市同 昭和十年五月 國所望松市街地建築物法適用 昭和十年九月 岐阜公園計畫追加決定 昭和十年九月 岐阜公園事業決定 昭和十年七月 岐阜街路事業決定 昭和十年六月 大垣廣南計畫及同事業決定 昭和十年六月 大垣街路事業追加決定 昭和十年三月 大垣運河計畫及同事業決定 昭和十年一月 大垣街路事業追加決定 昭和九年一月 岐阜下水事業決定 昭和三年以降ニ於テ認可セラレタル二十三ヶ地區ノ土地區劃整理組合設計ノ指導	昭和十年六月 境市都市計畫法適用 昭和十年七月 小島村同 昭和十年八月 小島村市街地建築物法適用 昭和十年三月 赤子街路計畫追加決定 昭和九年三月 赤子街路計畫追加決定 昭和九年以降ニ於テ認可セラレタル四ヶ地區ノ土地區劃整理組合設計ノ指導	昭和十年六月 境市都市計畫法適用 昭和十年七月 小島村同 昭和十年八月 小島村市街地建築物法適用 昭和十年三月 赤子街路計畫追加決定 昭和九年三月 赤子街路計畫追加決定 昭和九年以降ニ於テ認可セラレタル四ヶ地區ノ土地區劃整理組合設計ノ指導	昭和十年六月 境市都市計畫法適用 昭和十年七月 小島村同 昭和十年八月 小島村市街地建築物法適用 昭和十年三月 赤子街路計畫追加決定 昭和九年三月 赤子街路計畫追加決定 昭和九年以降ニ於テ認可セラレタル四ヶ地區ノ土地區劃整理組合設計ノ指導	昭和十年六月 境市都市計畫法適用 昭和十年七月 小島村同 昭和十年八月 小島村市街地建築物法適用 昭和十年三月 赤子街路計畫追加決定 昭和九年三月 赤子街路計畫追加決定 昭和九年以降ニ於テ認可セラレタル四ヶ地區ノ土地區劃整理組合設計ノ指導	昭和十年六月 境市都市計畫法適用 昭和十年七月 小島村同 昭和十年八月 小島村市街地建築物法適用 昭和十年三月 赤子街路計畫追加決定 昭和九年三月 赤子街路計畫追加決定 昭和九年以降ニ於テ認可セラレタル四ヶ地區ノ土地區劃整理組合設計ノ指導	

岐阜地方

現在ニ於ケル發展狀況ニ鑑ミ緊急施設設計畫ノ決定ヲ要スルモノ

内務省

多治見町	現在ニ於ケル發展ノ狀態 産業都市トシテ發展顯著ナリ 現在人口 二四、六九五 人口増加率年平均四%	陶磁器	緊急決定ヲ要スル計畫 幹線街路及土地區劃整理ノ決定
中津町	地方的物資ノ集散地トシテ發展顯著ナリ 現在人口 一七、一四四 人口増加率年平均六%	製紙、製絲	街路及土地區劃整理ノ決定
関町	商工都市トシテ發展顯著ナリ 現在人口 一三、四三四 人口増加率年平均三%	打刃物	街路ノ決定
高山市	産業都市トシテ發展顯著ナリ 現在人口 二〇、一四五 人口増加率年平均二%	生糸、春巻草	街路ノ決定、風致地區ノ指定
笠松町	地方的物資ノ集散地トシテ發展顯著ナリ 現在人口 八、五一二 人口増加率年平均三%	街路ノ決定	街路ノ決定
土岐津町	産業都市トシテ發展顯著ナリ 現在人口 七、〇九〇 人口増加率年平均五%	陶業	街路ノ決定

福島	宮城	長野	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	奈良	栃木	茨城	千葉	群馬	埼玉	新潟	長崎	兵庫	神奈川	大阪	京都	東京	北海道	警視廳
	一					一	一	一							一		二	一	二	一	二	一	定員
	一					一	一	一							一		二	一	二		二	一	事務
																			北支	一			都府
一	一	一	一	一	一	二	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八	三	七	四	七	四	定員
一	一	一	一	一	一	二	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八	三	七	四	七	四	現員
																							欠員
																							師
																							會
																							職員
																							調

合 計	沖 繩	鹿 兒 島	宮 崎	熊 本	佐 賀	大 分	福 岡	高 知	愛 媛	香 川	德 島	和 歌 山	山 口	廣 島	岡 山	島 根	鳥 取	富 山	石 川	福 井	秋 田	山 形	青 森	岩 手	
二 一							二						一	一	一			一	一						
二 〇							二						一	一	一			一	一						
一																									
八 〇	一	一	一	一	一	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七 九	一	一	一	一	一	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一																									

正しく補正の見直し

内甲一七六

昭和十三年七月二十六日

内閣書記官長

内閣書記官

佐藤

昭和十三年七月二十七日

内閣總理大臣 友

法制局長官



外務大臣

友

陸軍大臣

友

文部大臣

友

遞信大臣

友

厚生大臣

友

内務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

大藏大臣

友

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

別紙内務大臣請議内務部内臨時職員設置制中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕内務部内臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年七月二十九日

内閣總理大臣

内務大臣

呈案附箋ノ通

法制局

佐藤

法制局内第一八號

昭和十三年六月廿八日



乙第九二號

昭和十三年六月二十七日

内務大臣 末次 信

正



内閣總理大臣公爵 近衛文麿殿

神社ノ社殿修築及日獨伊防共協定實施ニ件ヒ之ガ事務ニ從事セシム
ル爲職員ヲ増員スルノ要アリ別紙勅令案ヲ提出ス
右閣議ヲ請フ

内甲一七六

内務省



勅令第五百三十號

内務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第十條ノ二項「技手」專任二十二名」ヲ「技手」專任二十名」ニ改ム

第三條ノ四第一項中「内務事務官」專任十二名」内一人ヲ勅任ト」ヲ

「内務事務官」專任十四名」内一人ヲ勅任ト」ニ、

「屬」專任四十五名」ニ改ム

人」ヲ「屬」專任四十七名」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 務 省

理由

羅馬ニ職員ヲ派遣スルコトト爲
リタルヲ以テ内務事務官二人、屬二
人ヲ夫々増員セントスルニ由ル

参考

警務課調書
三
法制局

第一條ノ二中改正ノ分ハ事業費豫算節約方針確定迄一時留保ノコトニ
打合濟
犯課一

保安課
八
全般一

庶務
一 第一係
一 第二係
二 (一名應召中)

外事課
三
勞働農民 一
内務 一
哈爾濱 一
柏林 一

一般外事 一 (附明中)
防課
庶務
一 情報 (應召中)

圖書課
五
庶務 一
新聞 一
出版 一
外事出版
レコイル (情報部常務)

著作權 (欠員)

内務省閣

參考

警保局事務官配置表 (保安課長ヲ除ク)

警務課	三	警務	一	保安	一	保安	一	映畫	一
防犯課	一	全般	一	庶務	一	第一係	一	第二係	二 (一名應召中)
保安課	八	文書	一	勞働農民	一	內鮮	一	哈爾賓	一
外事課	三	庶務	一	一般外事	一 (歸朝中)	防諜	一	情報	一 (應召中)
圖書課	五	庶務	一	新聞	一	出版	一	外事出版	レコイド (情報部常勤)
		著作權 (欠員)							

内務省

規格 B. 5.

IMT 646

448

外國駐在事務官配置沿革表

駐在 地 官 設置年月日 北京 廢止年月日 備 考

哈爾濱 大正十一年 引續キ存置

北 京 大正十三年四月 昭和五年八月

伯 林 昭和三年七月 引續キ存置

倫 敦 昭和三年七月 昭和五年三月

上 海 大正十一年 引續キ存置

備考 一上海駐在事務官ハ「外務事務官兼外務省警視内務事

務官」トシテ駐在セシメタルモノナルガ、昭和七年

八月一名ヲ増員シテ二名駐在セシムルコト、ナシ、

一名ハ領事兼内務書記官、一名ハ外務事務官兼領事

内務事務官トシテ駐在セシメツ、アリ。

内務省

規格 B. 5.

IMT 646

449

付浦考ニハ照

北京	ハルビン	外事	第五方面	第四方面	第三方面	第二方面	第一方面	労働	左翼	庶務	今年次別
											担別
—	—	—	X	—	—	—	—	X	X	—	昭三
—	—	—	X	—	—	—	—	X	X	—	昭四
—	—	—	—	—	—	—	—	—	X	—	昭五
—	—	—	—	—	—	—	—	X	X	—	昭六
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	昭七
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	昭八
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	昭九
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	昭一〇
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	昭一一
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	昭一二
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	昭一三

警察特別施設費支辨事務官配置表

備考	計	ロンドン	情報報	防謀庶務	宗教	文書	右翼	内詳	ベルリン
(1) 右表中事務分担ハ社會情勢ノ変遷ニ即應シテ (2) 〇印ハ現在ノ外事課配置員 (3) ×印ハ兼務 (4) 保安課長ハ本表ヨリ除ケリ	一〇	—							—
	一〇	—							—
	七						—	—	—
	六						—	—	—
	八						—	—	—
	八						—	—	—
	八						—	—	—
	一〇					—	—	—	—
	—						×	—	—
	—			—	—	—	—	—	—
	—						×	—	—
	—			—	—	—	—	—	—

参照

○内務部内臨時職員設置制

大正九年九月
勅令第三百六十九號

(總理内務
大臣副署)

第一條ノ二 神社ノ社殿修築及境内整理ニ關スル事務ニ從事セシムル爲内務省ニ左ノ職員ヲ置キ神社局ニ屬セシム

技師

專任三人

屬

專任六人

助手

專任二十二

第三條ノ四 特別高等警察及外事警察ニ關スル事務ニ從事セシムル爲内務省ニ左ノ職員ヲ置キ警保局ニ屬セシム

内務書記官

專任一人

内務事務官

專任十二人 内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

警務官

五人

内務理事官

專任一人

屬

專任四十五人

警務官補

十五人

警務官ハ内務事務官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ警察ニ關スル事務ヲ掌ル

警務官補ハ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ警察ニ關スル事務ニ従事ス

參照

昭和十三年度內務省所管追加豫算

歲出臨時部

第十三款 臨時神社費

第一項 熱田神宮外二社社殿修築並境內整理費

第二目 判任俸給

技	節	人員	一人年額	金額
手		二	九八五圓	一九七〇圓

第十六款 警察特別施設費

第一項 警察特別施設費

第二目 奏任俸給

第三目 判任俸給

屬	事務官	節
本省	本省	區分人員
二	二	一人年額
九八五圓	二、八八〇圓	金額
九ヶ月分一、四七七圓	九ヶ月分四、三二〇圓	額

(日本標準規格B4列) (操原納)

内務省

昭和十三年七月二十六日現在

内務本省	定員	現員	缺員
二〇八	一八九	一九	
警察特別施設費	四五	四二	三
備考	目下任用手續中ノモノ三名アリ		
内務大臣	内務事務官 缺員十人		
司法大臣			
商工大臣			
殖産大臣			
陸軍大臣			
海軍大臣			
文部大臣			
逓信大臣			
農林大臣			
厚生大臣			
労働大臣			
教育大臣			
社会大臣			
国務大臣			

(規格 B 5)

IMT 646

456

是

内甲 二〇七

昭和十三年九月三日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年九月十六日

内閣總理大臣 友

法制局長官

外務大臣

友

陸軍大臣

海

文部大臣

尾

逓信大臣

友

厚生大臣

友

内務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

大藏大臣

友

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

内務部内臨時職員設置制中改正件起案上申ス依テ

別紙ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

三十一

法制局 第 號
昭和十三年八月十九日

朕内務部内臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

昭和十三年 九月 九 日

内閣總理大臣
内務大臣

勅令第六百三十三號

内務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第一條ノ二中「技手 專任二十二二人」ヲ「技手 專任二十四人」ニ改

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 閣

(日本標準規格B4) (様原納)

理由

神社ノ社殿修築ノ爲技手二人ヲ増員スルノ要アルニ依ル

備考

法制局

本件ハ本年六月二十七日附乙第九二號内務大臣請議内務部内臨時職員
設置制中改正ノ件原案ニ包含セラレタルモノナルモ事業費豫算節約方
針確定迄一時留保ノ趣旨ニ依リ法制局附箋ヲ以テ同件原案ヨリ削除ニ
係レルモノナリ而シテ今般右節約方針決定ノ趣ニ關シ神社局當局者ヨ
リ説明アリタルヲ以テ本件起案上申スルコトトセリ

参照

○内務部内臨時職員設置制

大正九年九月
勅令第三百六十九號

(總理内務
大臣副署)

第一條ノ二 神社ノ社殿修築及境内整理ニ關スル事務ニ從事セシムル爲内

務省ニ左ノ職員ヲ置キ神社局ニ屬セシム

技師 專任三人

屬 專任六人

技手 專任二十二人

參照

昭和十三年度內務省所管追加豫算

歲出臨時部

第十三款 臨時神社費

第一項 熱田神宮外二社社殿修築並境內整理費

第二目 判任俸給

技手	節	人員	一人年額	金額
二			九八五	一九七〇

24
考

左ノ職員ヲ勅令ノ部ヲニ依ル

勅令第 號 技手 一人

内務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス 技手 一人

第一條ノ二中「技手 専任二十二人」ヲ「技手 専任二十四人」ニ改ム

附則 技手 二人

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 技手 二人

小計

技手 六人

内務省

規格 B. 5

IMT 646

465

理由

左ノ職員ヲ増減スルノ必要アルニ依ル

増之部

一 水川神社外三社社殿修築並境内整理工事ノ爲

技手 一人増

一 生島足島神社外二社社殿修築並境内整理工事ノ爲

技手 一人増

一 天智天皇奉祀神社御造營工事ノ爲

屬 一人増

技手 二人増

一 熱田神宮社殿修築並境内整理工事追加豫算ノ爲

技手 二人増

屬 一人増

技手 六人増

小計

内務省

規格 B. 5

IMT 646

466

臨時神社費、工事費、繰延額調

科目	區別	總額	十三年度		十四年度		十五年度		十六年度		十七年度		十八年度		十九年度	
			支出額	繰延額	支出額	繰延額	支出額	繰延額	支出額	繰延額	支出額	繰延額	支出額	繰延額	支出額	繰延額
臨時神社費	既定額	七〇九一九	一八〇三五	九三六六	一三三〇九	九八〇三	五九三六	二八三二	五九三六	三八三二	五二七五					
	繰延			一四三〇〇	一四三〇〇											
熱田神宮外二社々殿 修築並境内整理費	既定額	一九三六〇	二二二一〇	二七六三五	二九五六五	一九六八〇										
	繰延			六五〇〇	六五〇〇											
志波彦神社社殿修 築並境内整理費	既定額	四一〇〇〇	一八〇〇〇	二六〇〇〇	一四〇〇〇	一四〇〇〇										
	繰延			二〇〇〇〇	二〇〇〇〇											
官國幣社風水復旧費	既定額	一八七八四	一〇三六八	一三三三五	一九九三七	一八四四五	一三四四五	一九七八〇								
	繰延			五〇〇〇	五〇〇〇											

昭和拾參年八月拾五日

科目	區別	總額	上年度定額	上年度決算	年度						
					十三年度	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	十八年度	十九年度
權原神宮社殿修築 築地境內整理費	既定額	七五三〇〇	三三八八	四四〇二	一九〇九六	二四九一六					
	増減										
水川神社外三社々殿 修築築地境內整理費	既定額	一七三六九	一三〇三三	一四三三七	一〇七五六	一三〇九六	一八七四六	一八七四六	一八七四六	五七五〇	
	増減										
生野足神社外二社 修築築地境內整理費	既定額	五元五六	五〇三三	四九二四	八五四	一三五六	一〇八〇六				
	増減										
天智天皇 奉祀神社造営費	既定額	三二〇〇〇		三二〇〇〇	六四三〇	一七二四〇	八三三三〇				
	増減										

内務省

熱田神宮外二社社殿修築並境内整理費追加 (昭和十三年度追加豫算)

區分	金額	摘要
熱田神宮外二社社殿修築並境内整理費	一五四、七〇〇	
判任俸給	一、九七〇	技手二人
事務費	六、七三〇	
工事費	一四六、〇〇〇	

内務省

規格 B5

IMT 646

471

志波彦神社社殿修築並境内整理費

科目	總額	昭和十年度以前支出額	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度	摘要
志波彦神社社殿修築並境内整理費	¥14,000	¥1,000	¥1,000	¥10,000	¥1,000	
判任俸給	¥2,100	¥2,100	¥2,000	¥2,000	¥2,000	技手一人
事務費	¥1,000	¥0	¥0	¥0	¥0	
工事費	¥10,900	¥8,900	¥8,000	¥1,500	¥1,400	

内務省

規格 B. 5.

IMT 646

472